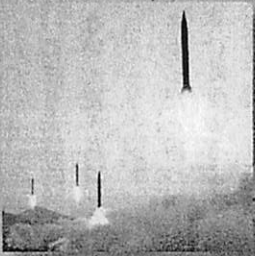


特集

朝鮮半島炎上



朝鮮半島が差し迫った危機にある。核開発を進め、ミサイル発射実験を繰り返す北朝鮮に、米国は「軍事力行使を含むあらゆる選択肢を用意する」と宣言した。一方、韓国では大統領が弾劾・罷免され、親北の左翼政権誕生が確実視されている。おまけに経済を牽引してきたサムソンのトップ2人が醜聞に倒れた。火薬庫と化した半島に、明日はあるか。



特集 朝鮮半島炎上

米軍が北朝鮮を「先制攻撃」するXデー

相次ぐミサイル発射・核実験に、VXガスをを用いた金正男の殺害。すでに米国が先制攻撃する要件は整った。Xデーは近い。

かわかみたかし
川上高司

拓殖大学海外事情研究所長

1955年熊本生まれ。大阪大学博士（国際公共政策）。世界平和研究所研究員、防衛庁防衛研究所主任研究官、北陸大学教授を経て、現職。著書に「米軍の前方展開と日米同盟」など。

戦争準備態勢にある米国

米国は今、最大規模の米軍を北朝鮮沖や韓国に展開させ、北朝鮮へ先制攻撃を行う即応態勢にある。トランプ大統領は北朝鮮に対する警告をエスカレートさせてきた。大統領は議会の承認がなくても「大統領権限」で60日間は戦争を継続できる。

米中首脳会談の最中の4月6日、米国はシリアへミサイルによる限定攻撃を行った。アサド政権が民間人に対して化学兵器を使用したことは国際法上も人道上也許せないからである。そして攻撃直後

にトランプ大統領はそのことを習近平国家主席に伝えた。晩餐会の終わる間際にふいをつかれた習近平は、その後すぐ部屋に引き上げた。かなり強烈なメッセージとなったに違いない。

中国が本気で北朝鮮に圧力をかけないと米国は北朝鮮を軍事攻撃する、とのメッセージである。大統領権限による軍事攻撃は米議会承認が必要とされ承認されない場合には30日以内に米軍を撤退せねばならない（1973年の戦争権限法）であるならば、大統領の意思だけで最低でも90日間は米軍は継続可能であり、北朝鮮への「作戦計画」(OPLAN=Opera-

tion Plan)を完了できるであろう。

米議会も北朝鮮の「VXガス」を用いた金正男殺害や度重なるミサイル発射・核実験にしびれを切らしている。米下院本会議は、北朝鮮のICBM開発非難決議案や同国を米独自の金融制裁の対象とする「テロ支援国家」に再指定する議案を圧倒的多数で可決した。

この危機的状況は日本にとってどの程度のものであろうか――。

米国の戦争準備態勢を示すデフコン(DEFCON)でいえば「3」もしくは「2」のレベルとなろう。DEFCONは米軍のJCS(統合参謀本部)が使用する

危機状況を示し、国防長官が宣言するものだ。DEFCONには「1」から「5」の段階がある。DEFCON「1」は米軍や米領土に対する戦争直前状況の場合によって核兵器使用も許可される。DEFCON「2」は「1」より低レベルであるが、キューバ危機で宣言（1962年10月）された。当時、戦略空軍はB52を空中待機させ、ソ連を即核攻撃でできる態勢を敷いた。DEFCON「3」は、通常より高度な防衛準備状態であり、第4次中東戦争（1973年10月）と米国内同時多発テロ（2001年9月）の際に宣言された。DEFCON「4」は情報収集と警戒態勢の強化、DEFCON「5」は平時の防衛準備態勢である。

米軍はこの3月からまさにDEFCONのレベルを上げてきた。米軍は韓国軍と3月13日～24日まで朝鮮半島有事の野外機動演習（FTX）「キー・リゾルプ」を行なう、3月1日～4月下旬まで、指揮所演習（CPX）「フォールイーグル」を過去最大規模で行っている。米軍増援や指揮態勢を点検する毎年恒例の合同軍

事演習であるが、ほんの少しの「さじ加減」で先制攻撃を行う可能性が非常に高いのだ。

演習には原子力空母の「カール・ビンソン」が参加した。また、米国は原子力空母「ロナルド・レーガン」を横須賀に配備している。「米国が西太平洋で2つの空母機動部隊を運用するのは異例」とされる。「レーガン」は現在、横須賀でドック入りしているが艦載機および潜水艦などの艦隊はいるので「2隻空母打撃群」が当該地域に展開していることとなる。その他F22ステルス戦闘機が沖縄の嘉手納基地に配備され、臨戦態勢は整っている。

米軍が先制攻撃を行う瀬戸際まできたのは今回で2度目である。1994年、米国と北朝鮮との核兵器開発に関する交渉は難航し、3月に北朝鮮はIAEA（国際原子力機関）の重要な査察の一部を拒否、5月には実験炉から燃料棒を抜き取った。事態は緊迫し、クリントン大統領は北朝鮮の核施設の空爆を検討した。これに対して北朝鮮は「空爆に対抗して、

砲撃でソウルを火の海とする」とし、一触即発の情勢に発展した。ところが、韓国の金泳三大統領が韓国に甚大な被害が生じると米国に空爆中止を要請した。韓国が同意しなければ空爆はできないため、クリントン大統領はカーター元大統領を派遣して、金日成国家主席との対話路線に転換した。

この時に米軍で立案された作戦計画が、クリントン政権下で在韓米軍（USFK）司令官のギャリー・ラック將軍により書かれた「OPLAN 5026」である。「OPLAN 5026」は北朝鮮の核施設、化学・生物兵器施設の約700ヶ所を数日間ピンポイント爆撃する作戦計画であり地下施設に対する攻撃も含まれる。ここではF117を含む飛行隊や増援された第2歩兵師団など地上部隊数個大隊、また空母打撃群が朝鮮半島に増派される。

こうだった、米国の朝鮮有事に関する「作戦計画」（OPLAN）は朝鮮戦争後、「5027」「5029」「5030」など、いくつも存在し書き直されてきた。

「OPLAN」は機密であるが情報が比較的公開されている「OPLAN 5027」が最も代表的なものである。「OPLAN 5027」は基本的に米軍と韓国軍が北朝鮮へ進撃する戦略であり、朝鮮戦争直後に最初に策定されその後何度も改定された。1998年の「OPLAN 5027-98」で先制攻撃を含めた計画となり、第一段階から第四段階にわかれ米軍が平壤に進撃し北朝鮮体制を終結させることが目標とされた。「OPLAN 5027-98」では、90日以内に米軍から兵員69万人、海軍艦艇160隻、航空機1600機が展開されるとされ、その後も「OPLAN 5027」は改定され続けられている。

過去最大規模の米韓軍事演習

3月にアジアを歴訪したテイラーソン國務長官は、「オバマの戦略的忍耐は終わった。今や、軍事力行使からすべての選択肢がテーブルの上にある」とし、北朝鮮への先制攻撃の可能性を宣言した。トランプ大統領も「北朝鮮のICBMの発射実験は起こらな」と明言。つまり、

先制攻撃も示唆する発言を行っている。

先にも触れたが、米軍と韓国軍は3月13日～24日の「キー・リゾルプ」で北朝鮮への先制攻撃や朝鮮半島有事の際の米軍の増援や指揮態勢を点検し、引き続き4月下旬まで、「フォールイーグル」で米韓両軍の上陸訓練を過去最大規模で行っている。

これら米韓の演習は、「OPLAN 5030」や「OPLAN 5015」を反映させていると報道されている。「OPLAN 5030」は北朝鮮心理攪乱作戦であり、北朝鮮の平壤上空を米軍のステルス戦闘機で飛行する。「OPLAN 5015」は、2015年12月に戦時統制権が韓国軍へ移管された場合に備えて2007年から米韓両軍が共同作業してきたもので、当初は「韓国軍主導、米軍支援」で作成される予定だったが2014年10月に統制権移管が事実上無期限延期されたため、米韓連合司令部が2015年に策定したものだ。それ以前の「OPLAN 5027」は、北朝鮮の全面的南侵にどう対処するかが主たる内容だった

が「OPLAN 5015」はその方針を転換し

た先制攻撃作戦となっただけでなく、金正恩の排除作戦（「斬首作戦」）が含まれる。このため国際テロ組織アルカイダの指導者、ウサマ・ビンラディン容疑者の殺害作戦に参加した精鋭部隊を含む米軍の特殊部隊も、米韓合同演習に参加した。

米韓両軍は「キー・リゾルプ」と「フォールイーグル」を実施するにあたり、原子力空母カール・ビンソン出動、大規模連合特殊部隊訓練を行い、有事の際の対北朝鮮先制攻撃能力を実質的に総点検していると考えられる。

「キー・リゾルプ」で米韓両軍は、北朝鮮の核ミサイル攻撃前に発射施設などへ先制攻撃を行う訓練や、朝鮮半島有事に備え米軍の増援や指揮系統をシミュレーションする合同演習を行った。

つまり、4D作戦が訓練されたわけである。米韓連合軍は北朝鮮の核やミサイルを「探知」（Detect）し、ステルス戦闘機F22やF35Bで「攪乱」（Disrupt）し、「破壊」（Destroy）する。そしてその後、北朝鮮からの反撃を「防衛」

(Defense) する。この「防衛」のためのMD(ミサイル防衛)の演習は、韓国南部の慶尚北道星州への配備が決まっている米軍の最新鋭迎撃システムTHAAD(高高度防衛ミサイル)の運用を前提に進められたと報じられている。

この訓練の期間中、北朝鮮では金正恩が約1ヶ月以上、地下50mのシェルターで生活していたとも報じられている。

一方、「フォールイーグル」では海兵隊の強襲揚陸艦や攻撃ヘリを使った上陸・進撃訓練、特殊部隊によるWMD(生物、化学、核、放射能兵器など大量破壊)兵器の除去訓練、また、空爆やミサイル攻撃での敵重要拠点の制圧訓練が行われた。

ここにはステルス戦略爆撃機B1B(ランサー)が投入された。ランサーはグアムのアンダーセン基地から約2時間で平壤に飛来し最高速度マッハ1.25で侵入し爆撃を行う。930km離れた場所から北朝鮮のターゲットを半径2〜3km内で精密打撃することが可能で、空対地巡航ミサイル24基など61トンの兵器を搭載

ために遂行した」と報じた。ミサイル搭載可能な核弾頭の準備ができ、それを弾道ミサイルに装填しターゲットに向けて発射した「訓練」であったのだ。

「スカッドER」の射程は約1000kmであり、それを北朝鮮の東海岸に移動した場合、三沢、佐世保、岩国などの在日米軍基地を射程に収める。その他、北朝鮮の実戦配備ミサイルには、トクサスカッド(射程120km)、ノドン(射程1300km)、テポドン1(射程1500km以上)、北極星2(射程2000km以上)、ムスタン(射程2500〜4000km)があり、開発中としてテポドン2改良型(6400〜6700km、派生型:射程10000km以上)があるとされている。北のターゲットとする在日米軍基地は、主要5ヶ所(三沢、横須賀、岩国、佐世保、沖繩)、関連施設は日本全国に128ヶ所あり、このすべてが北朝鮮のミサイルの射程にある。また、グアムのアンダーセン空軍基地は「ムスタン」の射程に収まる。

さる4月5日、北朝鮮は、東部の新浦

載。さらに、地中貫通爆弾バンカーバスターGBU28も保有し地下施設に対する空爆を行う。

今回の訓練ではB1Bは九州空域で航空自衛隊のF15戦闘機と訓練し、その後、朝鮮半島上空で韓国空軍のF15、F16戦闘機と「有事の際の北朝鮮の戦争指揮部の地下壕などの標的への攻撃手続きを点検した」と報じられている。

また、垂直離着陸ステルス戦闘機F35Bが在日米軍基地から朝鮮半島に飛来して目標物位置情報熟達訓練を行った。F35Bは最大速度マッハ1.6で飛行し、精密誘導爆弾の統合直接攻撃弾(DAM)や小直径爆弾(SDB)など、最大6.8トンの爆弾・ミサイルを搭載し、レーダー網をくぐり抜け核・ミサイル施設を正確に攻撃する。

さらに、攻撃型原子力潜水艦「コロンバス」を朝鮮半島周辺に展開した。「コロンバス」はハワイを母港とし、弾道ミサイル(SLBM)の他巡航ミサイル「トマホーク」(数千キロ離れた地上のターゲットを精密攻撃)や「ハーブーン」

付近から新型弾道ミサイル1発を発射。

60km余り飛翔し、日本の排他的経済水域の外の日本海に落下した。米太平洋軍はこれを、固体燃料式陸上発射の中距離弾道ミサイルKN15(北極星2号)と発表した。固体燃料式ミサイルは液体燃料式と比べ感知しにくいので反撃の時間がほとんどない。この実験により北朝鮮はどこからでも、いつでもアジア太平洋の米軍基地(在日米軍基地、グアム、ハワイ)を打撃するWMD搭載可能なミサイルを備えたとみるべきである。

第二の理由は、北朝鮮が金正男殺害にVXガスを用いたことである。VXガスは米国がサダム・フセインのイラクに対する軍事作戦の根拠となった。2003年1月の一般教書演説で、ブッシュは、CIAとFBI報告でサダム・フセインは「5000トンのサリンとマスタード・ガス、VXガスを製造するための物資を有している」とし、「将来米国が攻撃される差し迫った危機に置かれている」と述べた。そして、その2ヶ月後、ブッシュ政権はイラクへの武力行使を承認した。

(対艦ミサイル)などを搭載する。その他、米海兵隊のAV8BハリアーII垂直離着陸機、AH1Wスーパーコブラ攻撃ヘリコプター、米空軍のF16戦闘機なども参加した。

レッドラインを越えた北朝鮮

すでに、北朝鮮は米国の越えてはならない一線(レッドライン)を越え、米軍の北朝鮮への先制攻撃を行う要件は整った。

その第一の理由は、北朝鮮が「在日米軍基地をターゲットにする」として弾道ミサイルの発射訓練を行ったことである。北朝鮮は3月6日、北西部のトンチャンリ付近から日本海に向けて中距離弾道ミサイル「スカッドER」4発を同時に発射し、うち3発が日本の排他的経済水域に落下した。朝鮮中央通信は、北朝鮮の戦略軍火星砲兵部隊は「有事の際に日本駐屯の米帝侵略軍基地を打撃する任務を担っている」と述べた。そして、これを「訓練」として「核戦弾頭取り扱い順序と迅速な作戦遂行能力を判定・検閲する

したがって、今回も北朝鮮のVXガス使用が米国の北朝鮮への軍事力行使の理由となる可能性がある。

韓国は、北朝鮮は多様な生物兵器を独自に培養・生産する能力を備え25000〜50000トンの化学兵器を貯蔵していると推測する。また、平壤の国家科学院内の第1生物研究所、平城の微生物研究所、平安北道・枇岬の細菌武器研究所、平安北道・定州の25号工場、平安北道・宣川の細菌研究所など、生物兵器の研究や培養・生産施設を17ヶ所運営中と韓国の聯合ニュースは報じている。

第三は、金正恩が「ICBMの発射実験の最終準備に入った」と宣言したことである。これは、北朝鮮が核弾頭搭載可能な長距離ミサイルを保有するのが間近であることを示す。その実戦配備が整えば、北朝鮮は米国土土への核攻撃が可能となる。米国の専門家の分析には、北朝鮮がすでにミサイルに搭載可能な1トン程度までに核弾頭の小型化に成功したとみているものもある。いずれにせよ、北朝鮮が米本土に到達可能な飛距離を持つ

ミサイルを開発するのは時間の問題とみられる。

たとえば、北朝鮮はすでに、潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)の発射実験を昨年8月に新浦付近から行っている。ミサイルは約500km飛翔し日本の防空圏別圏の日本海に落下。韓国政府関係者によれば、ミサイルは1000km以上の飛翔も可能と分析している。それに加え、3月19日にICBMに使用される新型高出力ロケットエンジンの燃焼実験を行った。

また、3月6日の実験ではミサイルは移動式発射台(TEL車両)から4発同時に発射し船舶からの実戦使用が可能となった。これで北朝鮮は艦船に「スカッドER」を積み米西海岸の1000キロ沖からの攻撃ができるようになった。

核兵器から日本を守るのか

以上で述べたように、米国が北朝鮮を先制攻撃するタイミングは、「今」しかない。

これを逃せば、北朝鮮は核・ミサイル

は有益である。第二は、米国の(中国に対する)日本への拡大抑止は不十分であり日本は独自に核武装すべきである。第三は、「中国に北朝鮮の核放棄を促すため」に日本に核武装をさせるべきであるという見解である。

以上は「平時」における論議であり日本の核武装はデメリットが多い。しかしながら、現在のように「有事」が差し迫った状況で、デメリットを論ずる間などない。日本政府は核武装国家「北朝鮮」から、国民の生命・財産を守るための戦略を見出せるのだろうか。

過去、核戦略論は、攻撃と防衛の弁証法として発展してきた。冷戦期においては「懲罰的抑止」(報復による壊滅的打撃で攻撃を思いとどまらせる)だけで「拒否的抑止」(攻撃を物理的に阻止する能力を持つことで相手に攻撃を断念させる)を考えなかったが、2001年9月の米国同時多発テロ以後、ローグ・ステイツあるいはテロからの核攻撃に備え、米国はMD(拒否的抑止)を整備するに至っている。現在では日本も、米国

技術を完成させ、米国に対して核の抑止力を確保することになる。核を保有する「ならず者国家」として台頭してくるのだ。

しかも日本に対しても北朝鮮は「火の海にする」と度々脅してきたが、次第にそれが信憑性を帯びてきている。

北朝鮮が米本土まで攻撃を行えるICBMを保有した場合には、日本や韓国に対する米国の核の拡大抑止(自国のみならず、同盟国が攻撃を受けた際にも報復する意図を示すこと)の信憑性が大きく損なわれ、日本は核武装を余儀なくされる。

トランプ大統領は、昨年3月にニューヨーク・タイムズのインタビュで「日本が北朝鮮の核の脅威に直面するとき、日本の核の保有は米国にとっても悪いことではない」と日本の核武装を容認している。さらに、テイラーソン国務長官は3月のFOXニュースのインタビュで「日韓の核武装を排除しない」と述べた。米国の大統領と国務長官が日本の核武

の拡大抑止のみならずMDを導入し展開している。

しかしながら、核武装した北朝鮮に対する抑止力としては全く不十分である。日本は現在、MDシステム(イージス艦搭載SM3ミサイルとPAC3等)で北朝鮮からのミサイルを防御しようとしているが、北朝鮮からミサイル数十発を同時に一ヶ所の目標に向けて発射する「飽和攻撃」が行われれば、確実に日本のMDシステムをぐぐりぬけて着弾する。しかも、北朝鮮はスカッド・ミサイルを約600発、ノドン・ミサイルを200、300発保有していると言われる。

その事態を避けるため、日本には「懲罰的抑止」が必要となるが、日本政府が「独自」で核武装する選択肢はかなり厳しい。従って、日本は米国の核抑止を確実に機能させねばならない。それには、すでにNATO諸国が採択している、「有事核共有戦略」(ニュークリア・シェアリング)という方法を参考にしながら、米国の拡大抑止の確保を喫緊に考慮せねばならない。

装を容認しているのに、日本国内で核論議が起きないことは不可思議である。

ここで、日本の核武装の可否を少々論じておこう。

先ず、日本の「核武装のデメリット」であるが、第一に、日本は唯一の被爆国であり国民感情が許さない。第二に、日本はNPT(核兵器不拡散条約)の加盟国であり、独自に核開発をすればNPTから脱退せねばならない。第三に、日本が核武装すれば韓国や台湾なども核保有をする「核のドミノ現象」が起こりNPT体制を脅かす。第四に、中国との間に核の軍拡競争が起こる。第五に、日本のウラニウム輸入先である米、カナダ、豪州、フランスなどとの二国間協定が破棄され原子力発電所は止まってしまふ。第六に、核実験をする場所がないといった点があげられる。

次に、「核武装のメリット」であるが海外の専門家やメディアによると、この論議は三つに分類できる。

第一は、北朝鮮の核保有が北東アジアでの核バランスを崩すので日本の核武装

Xデーが来たとき、日本は

米国が北朝鮮を「先制攻撃」するXデーが実際に起きた場合、日本はどうなるか。

日本は日米安全保障条約から北朝鮮との戦争状況に置かれる。その後の事態対処が絶対不可欠となる。

第一に日本本土への北朝鮮のミサイルの被弾が考えられる。米国による北朝鮮への先制攻撃で破壊できなかった北朝鮮のミサイルから、在日米軍基地や日本の中枢機関への攻撃の可能性がある。これを日本は、第二段階で海上のイージス艦からの「SM3」での迎撃を試みる。ここで撃ち漏らしたミサイルを第二段階の大気圏内低層で陸上配備の「PAC3」で迎撃する。迎撃高度は20km以下となる。しかし「PAC3」は日本に32基しかなく、2発連続で撃つために2基ずつ並べて設置されるので、全部で16ヶ所しか展開できない。しかも「PAC3」が防衛できるのは直径約50kmの範囲でしかないので、日本列島の大半は無防備となる

のは明白である。それに加えて、北朝鮮からの特殊部隊の原発などへのテロの攻撃が考えられる。テロ対策やミサイル攻撃に対する「民間防衛」が必要だ。

第二に、韓国には約3万7千人の在留邦人がいて、年間300万人の観光客が訪れる。有事の際には邦人救出が最大の課題となる。放置しておけば北朝鮮の捕虜となる可能性もある。邦人保護は外務省の仕事であり、この時期に日本政府が長嶺安政駐韓大使を帰任させたのは、危機管理上正しい。韓国の日本人は米軍機には乗せてもらえない。なぜなら、空港は北朝鮮からの攻撃で破壊されている可能性が高いうえ、米国は自国民救出で手が回らないからだ。また、日韓関係の悪さから、自衛隊機は韓国には入れない。そのため邦人は朝鮮半島の最南端の釜山まで独力で移動せねばならない。釜山からは海上輸送は海上自衛隊、海上保安庁、民間フェリーなどが任務を果たす。

第三に、北朝鮮および韓国からの難民問題がある。米韓両軍は昨年10月末から11月6日まで韓国南東部などで行われて

いた軍事演習で、初めて避難民の収容などを想定した演習を行った。北朝鮮で難民が発生した場合の対応も想定したとみられる。演習では、米韓両軍が敵地に上陸した際に発生する避難民の収容や移送、医療支援などを行った。ここには沖縄に駐留する在日米軍海兵隊も参加した。米韓両軍は北朝鮮難民の大量発生などを想定した共同作戦計画も持っている。

北朝鮮や韓国が動乱状態に入れば、地中海のシリア難民がヨーロッパに押し寄せたように、日本海を渡り大量の難民が漂着する可能性がある。さらに、韓国や他国経由で、船舶や民間機で移民が押し寄せられることも想定される。事態の展開にもよるが、難民の規模は数千人から数万人に及ぶ可能性もあるとみられている。それをどう日本は扱うのか。また、その難民・避難民の中にまぎれて武装した偽装難民が大挙して来襲した場合の対処もどうするのが問われる。漂着難民の日本への永久的受け入れは難しい。一定期間滞在させ、基本的には出発地に帰還させる方策しかなくなるが、難行を極める

であろう。

第四に、北朝鮮崩壊後の朝鮮半島への支援である。北朝鮮のみでなく韓国の経済や政治体制も相当ダメージを受けているだろう。日本からは朝鮮半島への経済的支援が求められよう。この場合もいろいろなケースが想定される。韓国への支援だけで済むのか、あるいはその後、朝鮮半島が統一された場合は、そこへの支援も必要となる。

韓国への支援だけを考えてみても、北朝鮮の動乱を経た韓国経済は最悪の事態に陥る可能性が高い。その場合の日本経済への影響もかなり大きい。1997年のIMF(国際通貨基金)救済や、2008年の通貨危機が思い浮かぶが、それを上回るダメージを受けるかもしれない。以上のような有事後の結果管理(COII Consequence Management)が安倍官邸には早急に求められよう。「Xデー」が日本にやって来た場合、日本は生き残りをかけた大勝負に出なければならぬ。日本国家の命運を握る安倍総理の課題は重し。

45

特集 朝鮮半島炎上

すでに崩壊は始まっている 「金王朝」

すでに2012年に出されていた暗殺指令が、いま実行されたのはなぜか。金日成の血族と党政府の重要ポスト人事から、北朝鮮の内実を読み解く。

りそうてつ
李相哲

龍谷大学教授

1959年中国東北地方生まれ。両親は朝鮮半島慶尚道出身。北京中央民族大学卒業。黒龍江日報記者を経て、上智大学に留学。同大学院で博士(新聞学)。著書に「金正日と金正恩の正体」「金正日秘録」など。

正恩の叔母・金敬姫

金正男暗殺――。

北朝鮮という国の不気味さを世界中に再び刻印させられた事件から2ヶ月。寄せられる非難の声をよそに、ミサイル発射実験にロケット新エンジンの地上燃焼実験と、北朝鮮はむしろ不気味な挑発をエスカレートさせている。北朝鮮は一体どうなっているのか。金正恩政権は何処へ向かっているのか。

これを読み解くために、まず北朝鮮のもう一人の重要人物に光を当ててみたい。故金正日元国防委員長の実の妹・金敬姫

だ。彼女を軸に見ていくと、金正男暗殺の背景が見えてくるのだ。

金敬姫は金正恩労働党委員長の叔母である。北朝鮮の建国の父・金日成の血統(北朝鮮では「白頭血統」という)を受け継いだ第二世代の中では唯一、存命している。北朝鮮の一般住民の多くは、金正恩の出自は知らなくても、金敬姫が故金日成主席の愛娘で、死んだ金正日將軍の妹であることくらいは知っている。

これまで金敬姫の生死に関してはさまざまな憶測が飛び交ってきた。例えば2014年11月29日、米国CNN放送は、「張成沢(金敬姫の夫)が処刑(2013

年12月)された数日後に金敬姫は甥の金正恩と通話中に心臓麻痺で倒れ亡くなった模様だ」

と報じた。その後、2015年5月、CNN放送は、朴某を名乗る元北朝鮮高官にインタビューし、「金敬姫は毒殺された模様」と報じ、さらに、

「2014年5月初旬、金正恩は金敬姫を毒殺しよう命じた」

と伝えた。実行したのは974部隊で、毒殺の事実には金正恩と974部隊員以外の人間は知らないという内容である。しかしこの時、韓国国家情報院は、

新潮45

MAY 5



独占手記
 中国のアパホテル攻撃に私はいかに対処したか 元谷外志雄
 CIA文書公開で判明!
 1996年、日本の「慰安婦問題」反論文は
 なぜ封印されたか 有馬哲夫

朝鮮半島炎上

米軍が北朝鮮を「先制攻撃」するメデー
 すでに崩壊は始まっている「金王朝」 李相如

新潮45

MAY 2017

5

特集 朝鮮半島炎上

まさに、スペンヤルな酒

黄桜 S

純米大吟醸
黄桜 S 山田錦 100%

精米歩合50%
JUNMAI DAIGINJO
Special Rice and only Sake
an Authentic and Superior
Kizakura

清酒 500ml 参考小売価格 900円(税別)

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は適量を。

Kizakura
黄桜株式会社
<http://kizakura.co.jp/>

新潮社

04937-05



4910049370575
00815